



眷属の守護

R18
ADULT ONLY

キュッ

ゴキッ

ある日
私は人間として
生きてゆけなくなった。

んんん

んんん

あひ

んんん

グニッ

グニッ

グニッ

グニッ

そして
悪魔に命を拾われた。

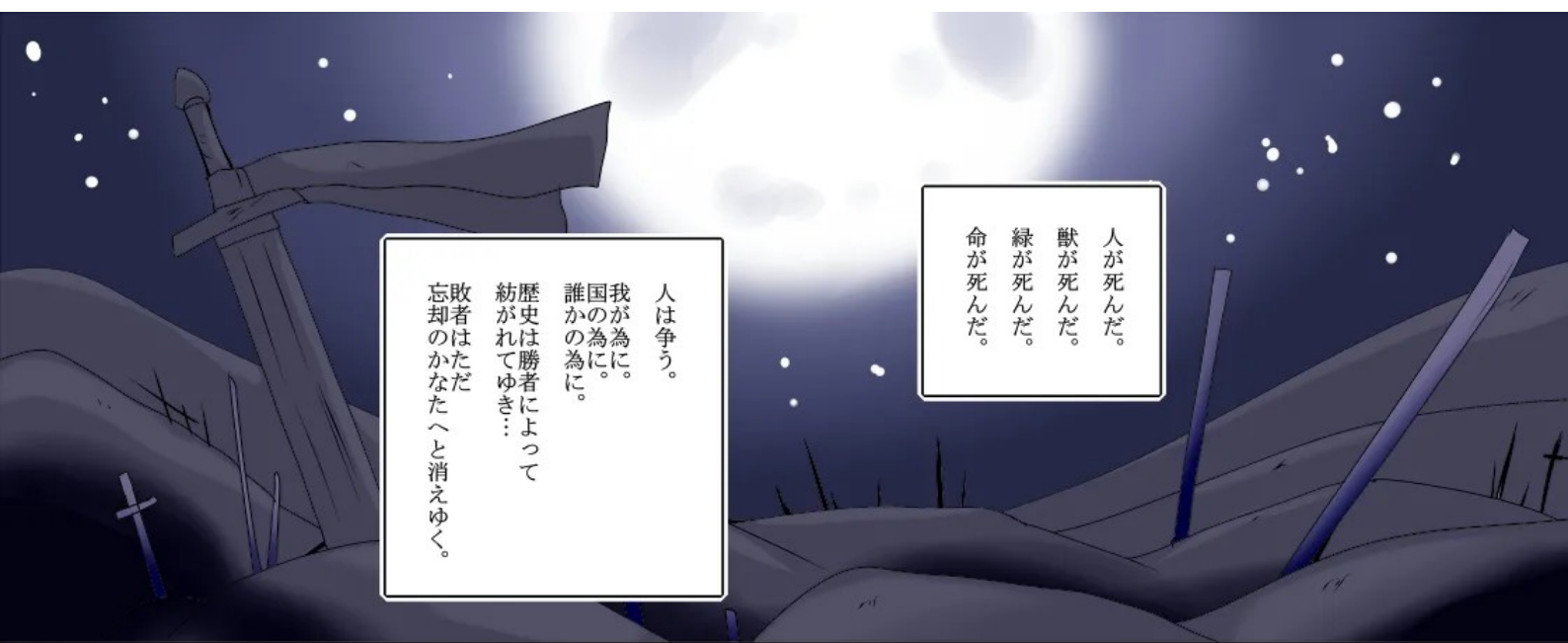


我が娘よ。

人は一人で
生きてはいけない。
にも関わらず
一人にされてしまった。
でも もう安心なさい。
悪魔に人間の原理
なんて当てはまらない。
あなたの思うように
生きなさい。




眷属の守護



人が死んだ。
獣が死んだ。
緑が死んだ。
命が死んだ。

人は争う。
我が為に。
国々の為に。
誰かの為に。
歴史は勝者によって
紡がれてゆき…
敗者はただ
忘却のみなたへと消えゆく。



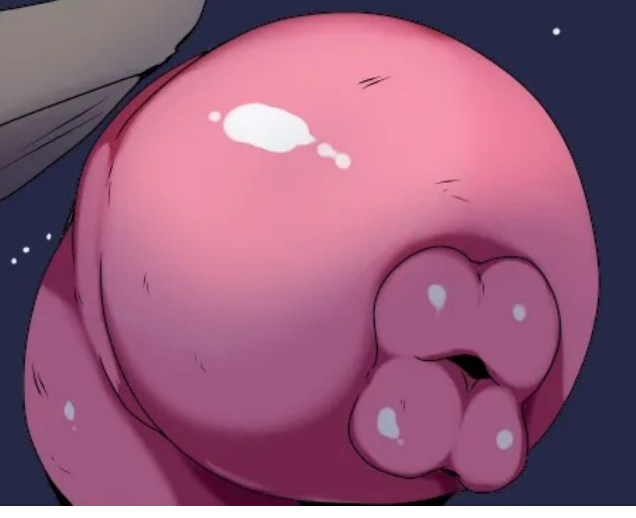
故に人間の歴史の真実は
誰も語らぬ。

勝者は一握りの存在で

その足元には大量の亡骸と

敗者という刻印を付けられ
亡骸の道を進むしかない
弱者が勝者の下へと
集まる…

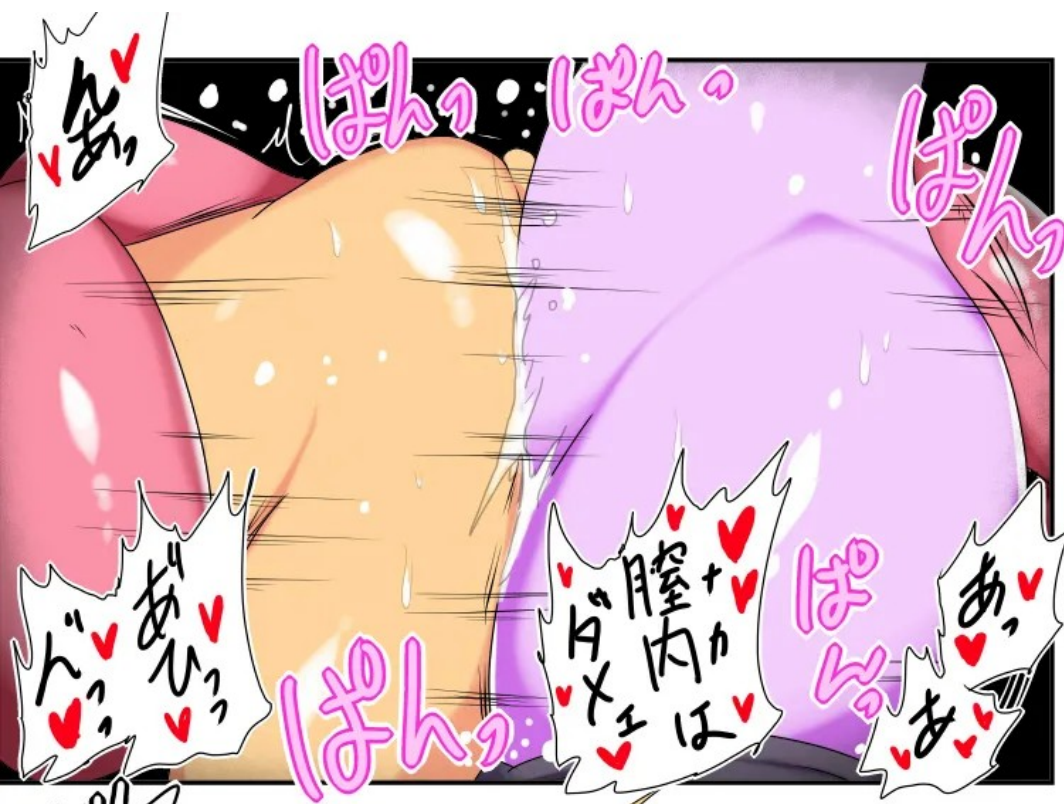
悪魔も顔を背ける
運命も逃れられない
事。



そんな中一人の悪魔は
人間の元へと暗躍する。

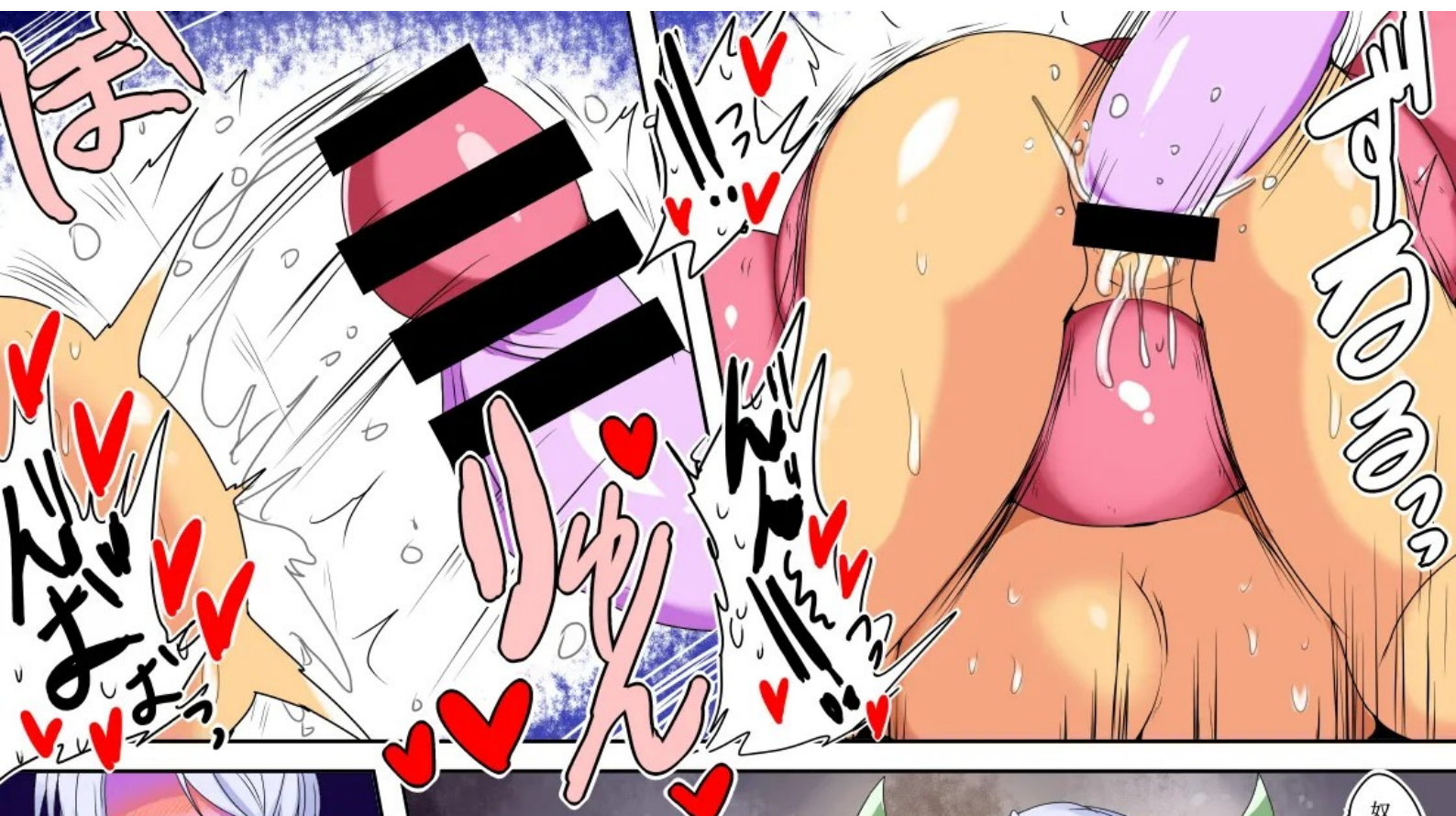
それは人間への更なる絶望か。

あるいは……



某日 深夜
とある洞窟内部にて。





そんなに良かったの？

痛くしないように魔法っぽいものかけてからあんなとしたけど...

もしかして声も出ない？

あんな気持ちかしら？

助けられたらと思つたらすぐに悪魔に犯されるなんて...

奴隷として捕まって洞窟に拉致されて

まほ...

んやんやん...



うふふ♪
暴れちゃだめよ♪

そのうちだんだん
気持ちよくなるから…♪

あらあら

随分見ない間に
淫魔っぽさが
板についてきてるわね？

ミノト？



ドポッ

ポコッ

んぐんぐん

ドポッ

ド

キッ

ああんた…!

ゲッ

ゲッ とはご挨拶ね。

でも元気そうで
よかったわ。

今日は悪漢を成敗して
奴隷の解放かしら？

まるで義賊ね。
嫌いじゃないけどね。

悪魔になっても
自分の誇りを失わない
立派な娘になって
お母さん嬉しいわ♪

ううっさいわね！

あんたこそ
毎回毎回
私の母親づら
しないでもらえる!?



まあ そう言わないで。
たまにはあなたが眷族にした娘達にも会いに行つてあげなさいな。
みんな ミコトに会いたがつてるのよ。

ああそうそう
これ ミコトが私の娘になる前から好きな花だったわね。
この辺じやとても珍しい花だったかしら？
たまたま見つけてきて…

……



ああ それとミコトが探していた母親……

あぁ
どこまでお節介なのよ!!

私を拾ってくれたのは感謝してるけどさ!!
私に親なんていないわよ!!

もう!!
それじゃあね!!



……
…野盗を殺さない程度にアジトを壊滅させて

両親も殺されて身寄りのない奴隷を眷族にして解放…ねえ。
…ホント素直じゃないわね。

まあいいわ。
気絶している野盗を全員毒で骨ごと溶かしておきましょう。

あの外道達の命ごときであの娘に罪を背負わせる訳にはいかないものね。

あっ…
もう出てくるの…?

ゴボ…
ゴボ…

悪魔の子供として
産み直す事だ。

私や淫魔の力は
こうやって尻尾で丸呑みにした人を
子宮に収め込んで…

モッ

種族も悪魔となる。
文字通り
生まれ変わるのだ。
ちや…

私みたいなレアケースも
あるんだって言うってたけど…
ム

丸呑みにされる前の
基本的な記憶以外…
もとい 嫌な思い出とかは
全部消えて…

そりやあ これから自由になって
嫌な思い出も何もかもリセット！って
無理はないかな…？
私も最初はそうだったし。

あ…
あは…
あは…
あは…

ああ 凄く嬉しいように
してるわねえ…

そして悪魔となった私達は
各々好きなように
生きていく。

そこに人間の論理等は
存在しない。

ある悪魔は自分の
ある悪魔は復讐の為
人間達を襲い 犯し
時には男を女の身体にして
弄び

眷属を増やしていく。

ミコト♡

あま
ミコトだ♡

ミコト♡

それが私達
淫魔としての生き方…

つて…聞いてただけど…

何故か私が産み直した
この娘達は

そんな いわゆる悪事に
全く加担する事もなく

おひゃらっ♡

ミコト♡

ミコトちゃん
お姉ちゃん♡

ミコト♡

えっちらっ♡
しよっちらっ♡

…なんかおかしくない!?

私にべったりひつついて
第二の人生を思いっきり
エンジョイしてる。

ミコト♡

ミコト♡





でも私達
ミコトと一緒の方が
幸せだし

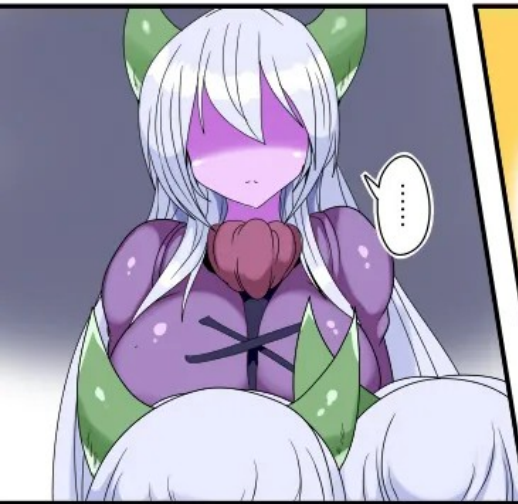
え？

復讐とか
好き勝手やるとかさ!!

もっとうろく...
する事あるでしょう!?

仮にも悪魔に
なったのよ!?

あ
あんたらねえ!?



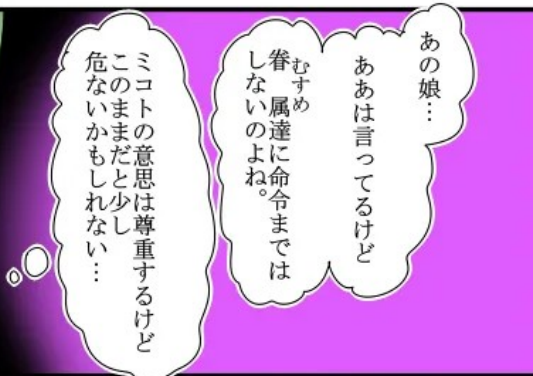
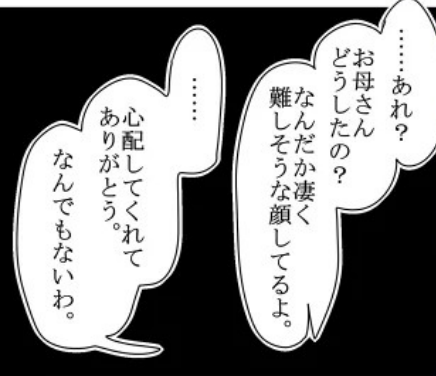
.....



あんたらがそんなんなら
私があんたらの分まで
好き放題するわよ!!

バーカ!!

何ひよってんのよ
バツカじゃないの!?



.....
心配してくれて
ありがとう。
なんでもないわ。

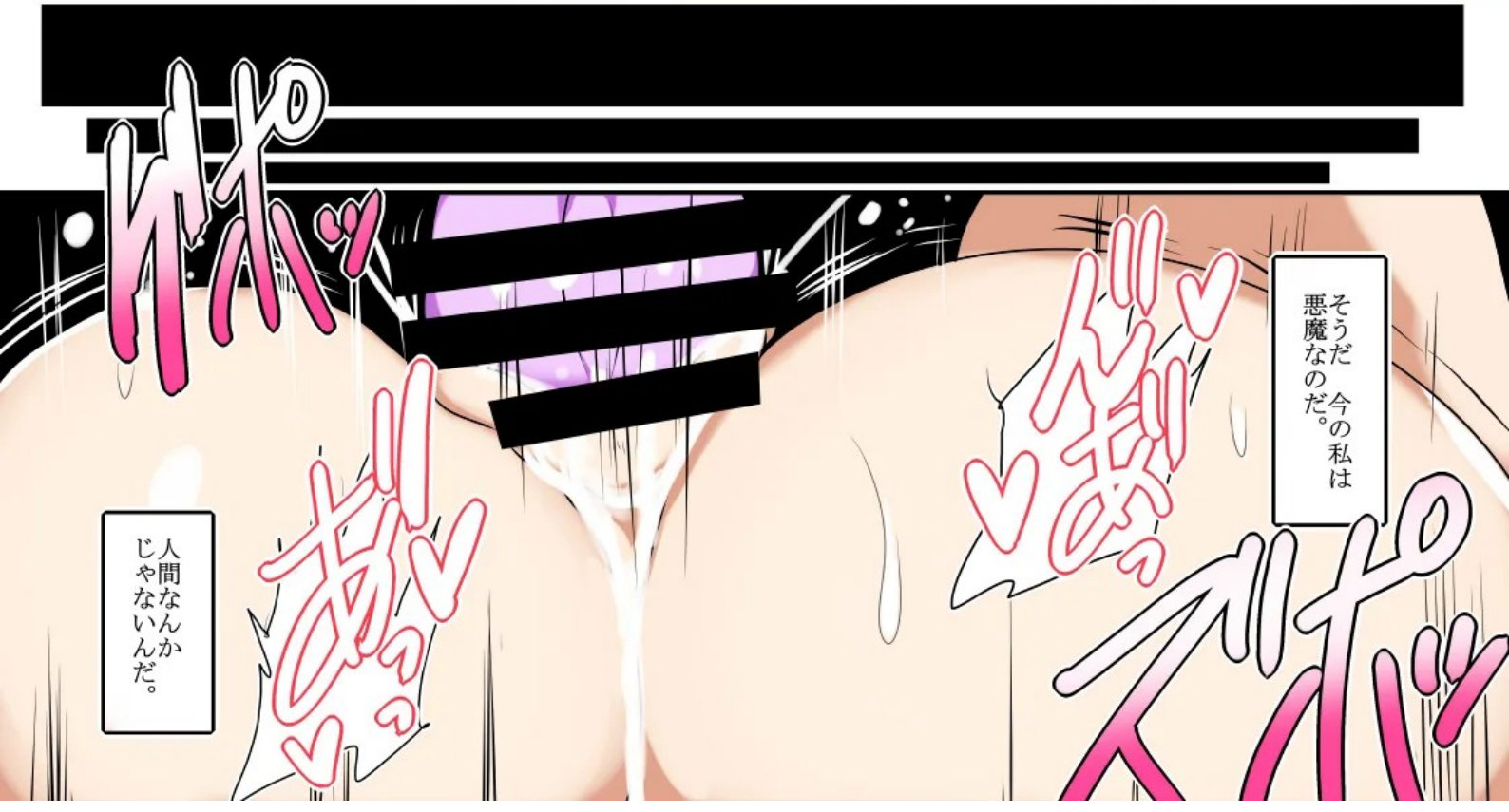
.....あれ?
お母さん
どうしたの?
なんだか凄く
難しそうな顔してるよ。

ミコトの意思は尊重するけど
このままだと少し
危ないかもしれない...

ああは言ってるけど
眷属に命令までは
しないのよね。

あの娘...

ああは言ってるけど



そうだ今の私は
悪魔なのだ。

人間なんか
じゃないんだ。

バカバカバカ

バカバカバカ

バカバカバカ

バカバカバカ

ふふふ
ふたなり生やされて
胸で挟まれるなんて
初めての体験でしょ？

ずんずん

ずんずん

はぁ
はぁ
はぁ

だば、
だば、

淫魔は
自分の事を
呼んでもいいと
言っただけだ…

私も挟ませた事あったけど
結構クセになるわよね

私に親はいない。
これまでも
そしてこれからも。

ん…

どいば…

ずんずん
ずんずん
ずんずん
ずんずん

最早人間に戻れるかない。
なんてのは分からない。

仮に人間だったとしても
どうせ死んでいたんだ。



それならば...





悪魔として生きてやる。

人間が嫌い恐れる
悪魔として生きてやるんだ。



そして私と同じような
思いをしてきた人間達を

私が一人残らず
悪魔にしてやるんだ。





必要なら私を憎んでもいい。
恨んでもいい。
利用したつもりでもいい。

人間として生きる事を
許されなかった人達に…

いくらでもチャンスを与えてやる。

理不尽に歯向かうチャンス。

過酷な運命から
逃れられるチャンス。

自由を…。



：残念ね。
私は死神でも
なんでもないわ。

あなたに伝えたい事が
あるの。

あなたの娘：
ミコトはまだ
生きていますわ。



ああ…

夢かしら…？
悪魔さんの姿が見えるわ…
こんな夜中にどうしたの？

いよいよ私の所に
お迎えかしら…？



そう…

よかった…
それを聞けただけで
本当によかったわ…

…

悪魔さんはご存知かしら…？

昔 この地域で戦争があつてね。

それはもう酷かつたわ。

娘以外の家族は全員
殺されてしまつて…

娘は…ミコトは
逃げる途中で事故で
離れ離れになつて…

でも 一瞬…

一瞬だけ 私はあの娘の安否より
自分の命の方を選んでしまつた。

そして今はこうなつてしまつたの。

…とても重い病気でね。

奇跡でも起きないと
もう数日しか生きられないんですって。



天罰が当たつたのよ。

母親失格である この私に。

でも…

ミコトが生きていけるなら…

もう思い残すことなく
地獄へ堕ちる事が出来るわ…

死なせないわ。

まだ終わらせない。

私や 他の娘達も

そんな運命は
許さないから。



ミコトはあなたの娘。
でも今は私の娘でもある。

子供が本当に幸せになる
為ならば

親として 奇跡ごとき
いくらでも起こしてやるわ。

私は母親なんだから。

そして

あなたも
ミコトの母親でしょう？



……そう……
生きていたんだ……
私の……母親……

しかも皆知っていたなんて……
悪事をしないのは
皆で私の母親を探していたって……

……まあ一応
それを聞いてよかったわ。

私にはあんた達を
巻き込んだ責任も
ある訳なんだし……

ミコト……

……この姿になつて
あんた達に悪いことをしたのは
私の意思だし……
今更人間に戻るなんて……

お姉ちゃん……



悪い事なんて
してないでしょ。

え、？

この地域で大規模な戦争があつてね。

私の家族と結婚を約束して、いた男が死にじやつてさ。

そして私はそのまま野盗に拉致された。



もしもミコトが来てくれなかったら今頃は奴隷として売り飛ばされてたんだよ。

当然 あんたが来るまでは慰みモノとして滅茶苦茶にされてた訳だけどもさ。

あれは本当にキツかった。好きな男とやるのと違って心がどンドン折れていくのを感じた！

あんたはそんな私の身体を悪魔の力？か何かでしつかり綺麗にしたんだよね。

その後私を無理やり抱いたけど

悪魔の力でとびつきり気持ちよくして幸せいっぱいにして感ずるようになったよ？

人間として考えると道理は外れてるけどさ。

あれもミコトなりの気遣ったのよ。だったんだって皆から知ったのよ。

無理やりあんな事やったのも

「悪魔にしたのはミコトだ。」って「強姦をしたのはミコトだ。」って

全ての罪を全部ミコトが背負って

私達にはもう一度生きるチャンスを与えていた！

ほっ



…彼女だけじゃない。

ここに居る皆を
貴女が
助けてきたのよ。

だから他の娘達は
ミコトの罪の意識を
少しでも和らげようと

悪い事はあえてせず
私と一緒に唯一の肉親を探し
続けてきたのよ。

みんな 貴女の事が
大好きだから。

貴女の幸せを
願っているのよ。

ミコト。

心配しないで
私は常に貴女を見守り続ける。

ずっと ずっとね。

ぱ。

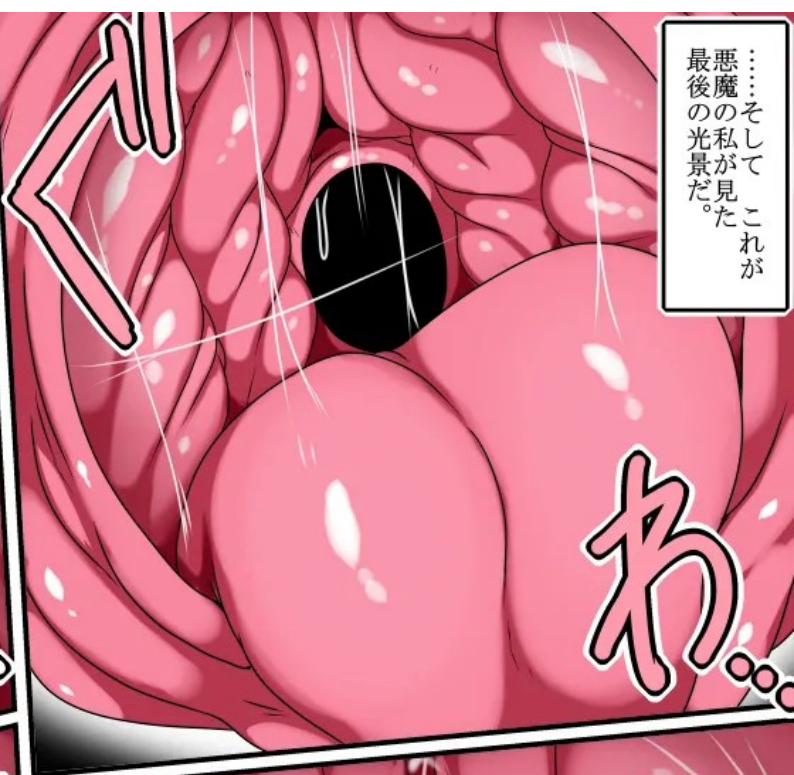
だから あなたも
幸せになりなさい。

わ。

ぐちゃぐちゃ...

……そしてこれが
悪魔の私が見た
最後の光景だ。

ただ今となっては
私がかつて悪魔になつては
という事実ですらおぼろげだ。

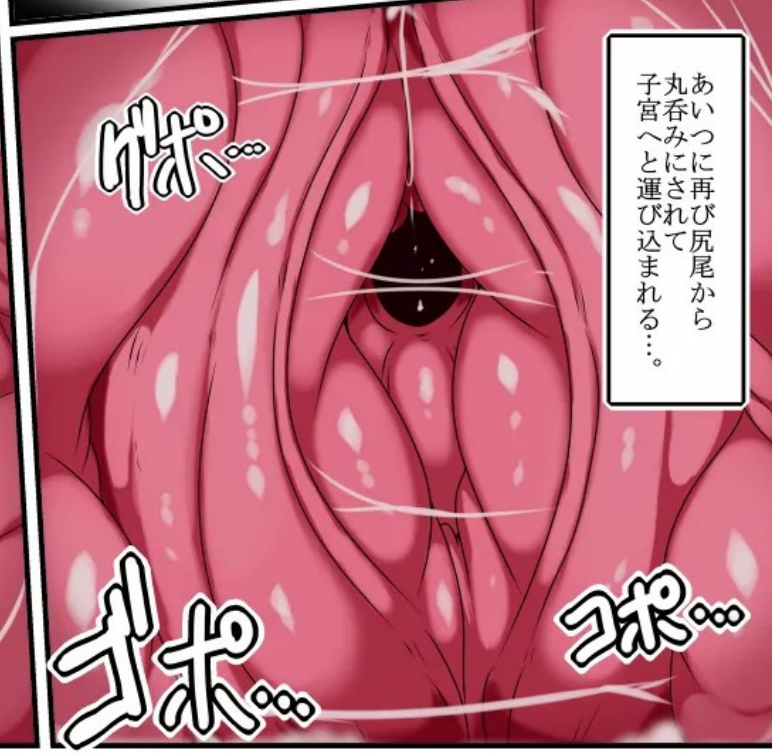


あ...

何故なら 今では
母親と離れ離れになった頃からの
記憶がぶつたりとなくなつてゐるからだ。

ぐわ...

私の母も以前病氣だったのだが
ある日を境にウソのように元気になった。



あいつに再び尻尾から
丸呑みにされて
子宮へと運び込まれる...

げ...

だがそれと同時に母の中では
「戦争から二人で逃げ切った」という
記憶になつてゐるという

と

の...

ゴボ...

ゴボ...

……そんな記憶の食い違いからか
だから私はこんな感じの夢を
たまに見る。

そして現実とは...
戦争が無くなり 平穩が戻つた。

「世界中の孤児の
数が減つた」事だったり...
「何年も行方知れずだった子供達が
元気に成長して親の元に帰つてきた」とか

まるで戦争という災厄の後に
何者かが後始末をしてゐるような
そんな幸福までもが 平穩と共にやつてきた。



今日はいつもの
パン屋さんで
おまけしてもらって…

ああそうだ
貴女に見せたいものが
あるのよ。



じゃあ待ってて
今すぐ朝ごはんの
支度をするわね。

…ん…

目が覚めたの？
ミコト。

…あら



懐かしいわねえ…

この辺じゃ
もう見れないって
言われてたのに。

買い物から帰ってきたら
この花が玄関にポツンと
置かれててね。

よかったわね
ミコト。

コレよコレ！

あなたが小さい頃から
好きだったお花！



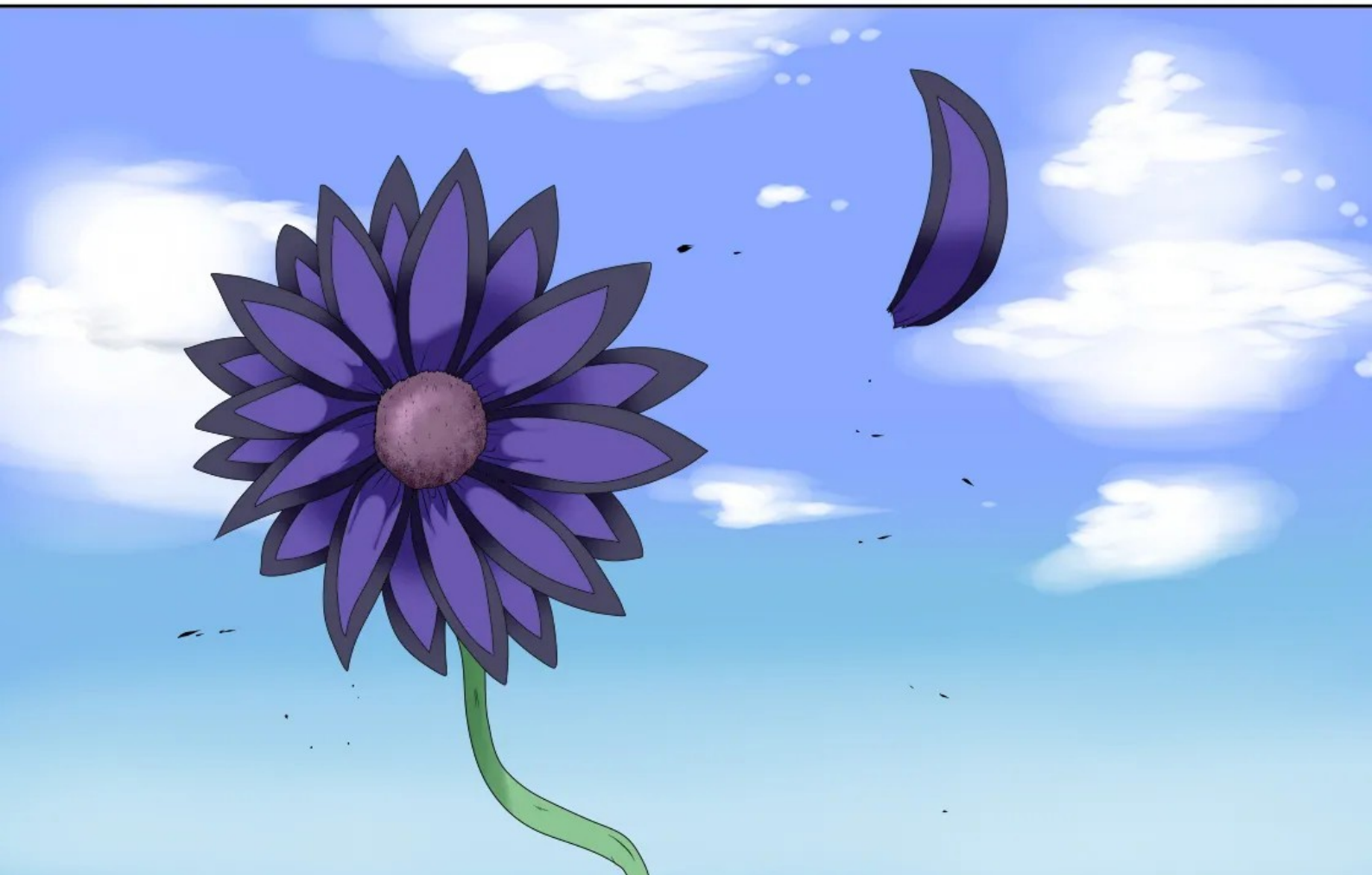
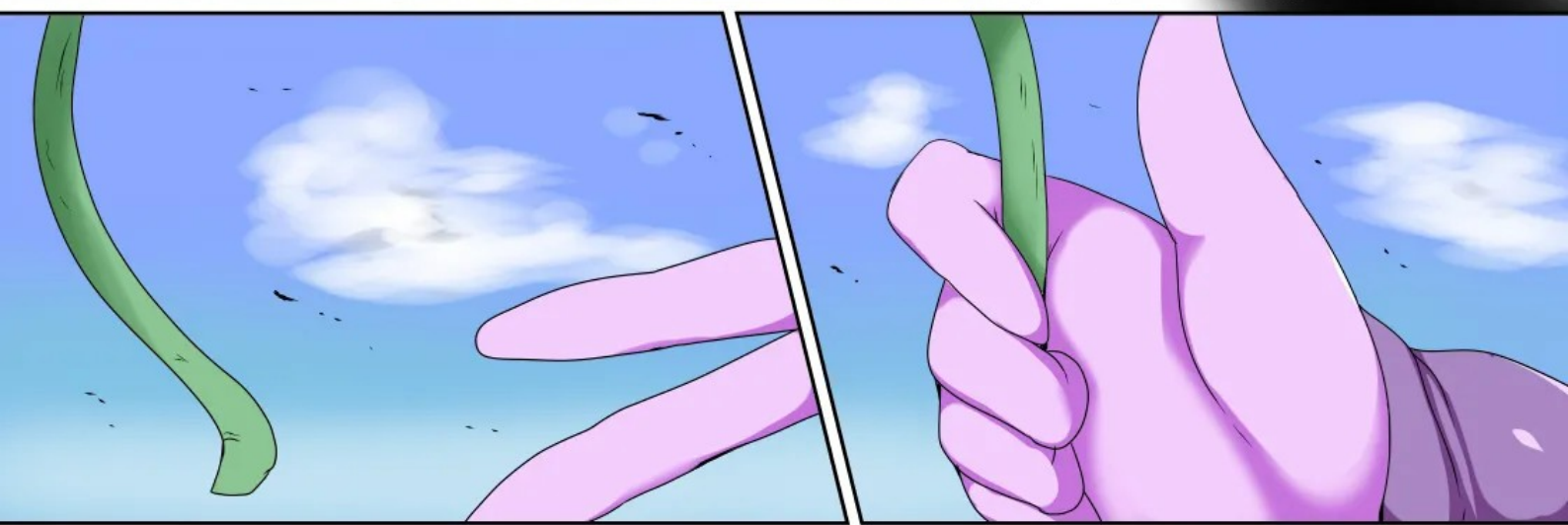
…ありがとう…

お母さん…

うん

…うん

私… その花 大好き。



どうも タクです。

初めましての人 初めまして。
こんにちはの人 いつもお世話になっております。

この度は眷属シリーズの続編「眷属の守護」をご購読いただき
ありがとうございます。

今回はいつもと比べ 眷属化した娘が中心となるお話になりましたが
いかがでしたでしょうか。

というのも 今回のコロナウィルスによるコミックマーケット中止により
改めて時間が出来た事により これを機に 改めて自分自身の作品を
再度見つめなおす事になりました。
(ここ最近 なんだか迷走しているように感じたので)

ここ最近の作品 もとい 眷属シリーズの作品を見ると
本作の名無しの淫魔さんが 同サークルの作品の
「あなたの身体シリーズ」の淫魔と性格が混同してしまっている節が見られたり
その他様々な反省点と改善点が多く見受けられました。

そして自分の作りたいものは何か? というのをもう一度考えたりもしました。

…本作はそれらの改善点や考えを少しでも活かしながら 制作をいたしました。

他のサークル様と比べたら まだまだ若輩者の身ではございますが
今後も成長を続ける幻想ストマックを どうぞお見守りくださいませ。

それでは また

幻想ストマック タク

代表者 タク/幻想ストマック
連絡先 takuneko0828@yahoo.co.jp
pixiv 1626319
twitter takukuroneko

無断転載 複製 二次使用 翻訳などの加工を一切禁止します。
本作の無断違法公開を見つけた際には
検索サイトへのDMCA侵害申請 サーバー会社への通報
及び悪質な場合は損害賠償の請求などの対応を
とらせていただく場合がございます。

成人向けなので18歳未満の人は見ちゃダメよ!
また 本作の影響による第三者の犯罪 事件 事故等は
当サークルは一切関与いたしません。



理想がまたく